
第 143 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXLIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時:2021年5月9日(日)14:00-16:00

場所:Zoom を利用したオンライン開催

テーマ 「教科書が学生にとってより価値あるものであるために一和書の場合」

参加人数:16名

* Fecha y hora: Domingo, 9 de mayo de 2021, de 14:00 a 16:00

* Reunión On-Line con el sistema Zoom

* Tema: "¿Qué podemos hacer para que los libros de texto publicados en Japón sean más valiosos para los estudiantes?"

* Participantes: 16 personas

1. 概要

今回のテーマは、2020年2月の「第11回関西スペイン語教師の集い」(開催地:梅田)と同じである。当初の計画では、その時に出席できなかった人々向けに、翌月(2020年3月)に同じテーマで開催するつもりであった。また、アンケート結果と2月・3月の話し合いの結果をまとめて議事録に掲載する予定であった。ところが、3月の例会がコロナ禍により中止になり、その後、コロナ禍による混乱ならびにオンライン授業の開始により、2020年度は急遽オンライン授業をテーマとした内容になった。そのために、教科書についてのテーマは中断された。

中止になった2020年3月に予定していたことを行うにあたり、1年間のブランクで文脈がわかりにくくなってしまったことから、今回は、アンケートの内容を思い出し、文脈を回復すること、そして話し合いを継続することが開催の目的となった。

今回の例会は、次の3部構成とした。

1. アンケートの概要(実施の趣旨と結果の資料)の説明および読み込み
2. グループディスカッション
3. 全体ディスカッション

1については、まず世話役の小川が概要を説明した(内容は「第11回関西スペイン語教師の集い」の議事録のまとめなので省略)。次に、無音の時間を取り、参加者が各自、資料を読み、適宜コメントを資料内に記入した。その後、2と3を実施した。

今回、参加者が資料にコメントを記入し、それを共有できるようにするため、次の資料をGoogle Documentに変換して、参加者がコメントできる設定にして共有した。

- 1) 学生アンケート

- 2) 教員アンケート
- 3) 出版社アンケート
- 4) 1 回目の話し合いの記録 (第 11 回教師の集いの実施報告)

1), 2), 4) は、TADESKA ホームページの「議事録」で公開されたもの (<http://tadeska.sakura.ne.jp/JPActas/134/202002.htm>)。3) は非公開 (2021 年 5 月現在)。以下、第 2 部と第 3 部のディスカッションの内容について報告する。

2. ディスカッションの内容

アンケート結果そのものについてのコメントもあったが、むしろ、それに触発されたいろいろな意見や情報の交換を行った。

本節では、グループディスカッション、および全体のディスカッションの内容を、トピック別に再構成している。4 つのグループのうち 1 つは高校のスペイン語教員を中心としたメンバー構成なので、このグループのディスカッションの内容を 1 とした。2 以下は大学についての内容である。

1. 中等教育におけるスペイン語の教科書

(以下、ほとんどが高校について)

1.1 どんな教科書を使っているか？

- ・ Muy bien (理由：2 年間で現在形を終わる。生徒に好評)
- ・ Imagínatelo (理由：パワポがある。単語の復習がしやすい。早く進められる)
- ・ Hola, ¿qué tal? (1 年目)
- ・ 文化を学べる一般書 (2 年目)
- ・ 『彩いろどりスペイン語』 (理由：色を重視)
- ・ 教科書を使わずプリントを自作している (○生徒側のコスト/×教員の手間)。←プリントだけだと大変では？ 教科書あった方が残るし、手間も減るだろう。

1.2 教科書の価格に関して

- ・ 高校 (他の言語) で 3000 円以上の教科書の採用が認められなかった。
← 大学では高校より教科書の値段の相場が高めかもしれない。
← (全体ディスカッションでの補足)
勤務先の高校から、高価な教科書を採用しないよう言われている。
- ・ 受験にも就職にも使わないスペイン語授業に教科書を買わせるのはどうかと思った。

1.3 音声はどのように流しているか？

- ・ 今まではラジカセ。今は bluetooth スピーカー (音源→スマホ→スピーカー)
- ・ bluetooth スピーカー

- ・ CD を使ってるが、生徒はあまり聞かない。
- ・ 生徒のスマホに音声があればそれを彼らは聴くだろうか？
←自分の授業では、聴くことを宿題にしている。

1.4 スペイン語の教科書は高校生向けとしてどうか？

- ・ 「大学生向け」という記載がない方がよい。生徒が理解できない時に「大学生向け」だからでしょ、と思う。
- ・ 昔は難しい教科書を使う方が良いと思っていたが、最近は簡単めのものを選んで自分で肉付けしていくようにしている。

1.5 教科書の内容と授業の内容等に関して

- ・ 会話をしたい学生が多い。英語の授業が最先端を行っている。文法重視の授業は退屈する。
- ・ 学生は会話を希望。文化紹介、フラッシュカード、ロールプレイなどやっている。
- ・ スペインに寄らない教科書を選ぶようにしている。
- ・ 中米出身の ALT から「vosotros は教えなくていいのでは？」と言われて、どうすべきか困った。

【ここから下は大学について】

2. アンケート結果についてのコメント

- ・ いろいろそれぞれの立場で言いたいことがあって難しいが、だいたい「そうだよな」というコメントだと思った。そんな中でも、出版社の方のコメントは新鮮に感じた。
- ・ テキストを作り、売るのは大変だなと思った。
- ・ 「回答が欲しい」「日本語訳が欲しい」という学生の声について。教科書と参考書とは異なる扱である。文法説明の例文には和訳があった方がいいと思うが、練習問題には付けない方がいいだろう。練習問題が少ないので、もっと繰り返しやりたいという意欲のある学生が解答を欲しがっているのではないか。
- ・ アンケート結果をみると、著者として出版の意欲のある先生がかなりいる。先生はとても忙しいという認識だったので意外だが、よいことだ（出版社）。

3. 授業における教科書の使用について

- ・ 年度の最後までにテキスト最後まで行き着けない。
←（提案）現在形の他は、代表的な命令表現だけ決まり文句として教えるとか。接続法の学習はしないとしても、代表的な命令表現だけリストアップして紹介しては？
- ・ 文法詰め込んだ割に、基本的なコミュニケーションもできていない学生が多いことを考えると、文法あまり進めなくても身につける方を重視した方がよいのでは？
- ・ 文法/会話の2授業あるパターンは足並みそろえるのが難しくなりがち。その点で "Entre

amigos” “Muy bien”は使いやすい。

・オンラインでその教科書の予習用の教材を自作している。クイズ形式にしておくことで学生が予習してくる。

4. 教科書の選定について

・非常勤の場合は、自分の意志でテキスト変更しにくい。

・新しい教科書に変えるのも、ひとつの冒険。

・同一大学内で複数の教員が違うテキストを使いながらスペイン語を教えている場合は、混乱を招きやすい。

・教科書を選ぶ自由を残すことは、意見交換等の機会にもつながる。教員の「学び」の機会にもなる。

・自分で作るのはエネルギーがいるけど、作った以上は使いたい、でも長く使うことにも問題はあ

・ *Nuevo avance*(スペインの出版物)を使用しているが変更希望。アドバイス希望。

← *Gente* など。繰り返し使っていると疲れてくる。4~5年くらいが限度? 時代や状況からテキストがおいて行かれる感じがする。

・勤務先の大学で統一教科書にしていこうという動きがあるが、自分(専任)は反対。各教員が実現したい教育方針に従って各自が教科書を選び、学生が授業を選べる方がよい。

・自分としては、共通教科書を選ばなくていい、シラバスも書かなくてよいのは楽。また、授業内でクリエイティブなこともできるので不自由さは感じない。例えば、昨年度のオンライン授業の経験を通し、オンラインで教材をいろいろ作れるようになった。

5. 製品としての教科書・教科書の制作

・文法一辺倒だった教科書が、コミュニケーションも組み合わせるようになってきた。文法(日本語)/会話(スペイン語ネイティブ)が同じ教科書を使って進められるようにするなど、工夫されてきたな、と思う。

・なぜ初級の(似た感じの)教科書が多くなるか?

←ジレンマがある(特色のあるものを出したい⇔売れるものを作らないといけない)。売れるという意味では、特定の大学の統一・継続採用の教科書がよい。しかし、なかなかそういうことはないので、多くの大学で使われそうな、多くのニーズを満たすようなものを作らざるを得ない(出版社)¹。

¹ 出版社が営利主義なのではなく、一般企業なので経営上収益は死活問題である、ということ。教科書に関する話題で、まれに、当然の企業活動と営利主義を混同してしまうコメントが過去にあったので、この点については、教員として誤解のないようにしたい(小川)。

・最近では4ページ構成で1ページ目が会話のものが気に入っている。会話練習しやすく便利。

・自分の作りたいものを出版できたが、脇の甘さもあった。

←（全体ディスカッションでの補足）

見直しが不完全だった。他の教員に校正をお願いすることに遠慮があったが、そうする方がよかった。なので、今後どなたか教科書を出す時には、私は校正を手伝う。

6. 補足資料等

・単語集やドリルなどの解答をネットに上げている教科書も最近少しある。

・無料でいろんなことをやるわけにはいかない。教科書を使ってきているならアクセスして使ってもらえる（出版社コメント）。

・教員用のCDはなくしてほしくない。カセットは不要であろう。

←空カセットが仕入れられない（出版社コメント）。

7. デジタル教科書について

・デジタルなら、教科書と参考書を併用できるものでも分厚くならず済むのではないか。

・デジタル教科書はできるか？コロナで教員の意識も変わったと思う。

・コピーできないものにするには、アマゾンや楽天に載せないといけなくて、そうすると本とセットという形にはしにくい。

・紙媒体をなくすわけにはいかないの、デジタル一本化できない。

・Campus Difusión プラットフォーム上で教科書がデジタル。たぶんどちらかという教師用。

・デジタルで書き込みができるようにするのは難しい。

・デジタル教科書は、パソコン画面を占拠するので、授業映像と併用しにくい。

・デジタル教材を教員が費用負担する？大学が払ってくれば・・・

（全体ディスカッションでのコメント）

・デジタル教材は気になる。でも使う教員が使いこなせないとうまくいかないだろう。チームでするなら、チームとしてうまくいかないといけなくて、どうしたらよいだろうか。

・デジタルだと内容の修正がしやすいだろう。紙の教科書だとミスを修正しにくい。

←それは事実だが、逆に、完成度が高い教科書になりにくい。

知らない間に修正されていて困る。

8. 市販の教科書を使用しない場合

・学生の意見を取り込んで、（会話のテキストを）自分で作っている。

・自分で教科書を手作り。印刷屋さんで印刷し、学生に配布している。

理由 ①自分の希望する内容と市販の教科書の内容が一致していない

②カラーで作っているの、市販の出版物だと高価になってしまう。

★今回の例会について

出版社さんの意見を聞く機会がなかなかない。今回も貴重な話し合いができた。出版社さんからも好評だった。いろいろな立場がありながら、和やかな雰囲気ですべてのコメントが出てよかった。全体ディスカッションはややおとなしめだったが、グループでは活発な話し合いができた。

ディスカッションがアンケート結果に直結しにくいのは、グループのメンバーで話し合う機会に、そのメンバーの中で出た話題で話が展開されやすいからであろう。過去のTADESKAでの話し合いの経験からも、議論の方向性を制限すると、議論がしにくくなる。TADESKAとしては参加者がよい雰囲気の中で自由に話し合うことが何より重要なので、世話役の意図はともかく、「結果オーライ」である。しかし、話し合われた内容は、アンケートと関連づけられるものである。その意味では、実施したアンケートは、私たちの広範な関心をおおよそカバーするものであったと言えるのではないか？アンケートで見ることができるたくさんの声も含め、全体として、豊かな議論が形成されていると考えたい。

(報告者：小川雅美・柳田玲奈)